

事例 : No. 4

人材の育成と、作業班の増班による素材の安定供給

- 1. 林業事業体等名 いせしま森林組合（三重県度会郡度会町）
- 2. 林業事業体の概要
 - ①年間素材生産量 3,123m³（うち 間伐の占める割合 70%）
 - ②生産する主な樹種 スギ、ヒノキ
 - ③素材生産に関わる作業員数 6名（1セット3名×2セット）

3. 取組の特長

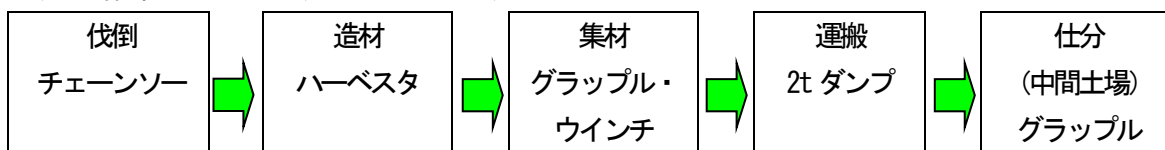
・5名1班から3名2班体制に

当組合における素材生産は、搬出間伐を中心に1班体制であったが、生産量の増大を図るため、主伐に取り組み始めるとともに多様化する現場に対応できる人材育成に取り組んできた。若手職員の成長もあり、グラップル・ウインチを追加導入し、複数現場を同時に作業できる体制を整備した。班編成にあたっては、安定的に現場をこなせるベテラン主体の班と、責任感と自ら考える力の向上を狙った若手主体の班をつくり、生産性と人材育成を両立させるよう工夫している。

4. 具体的な内容

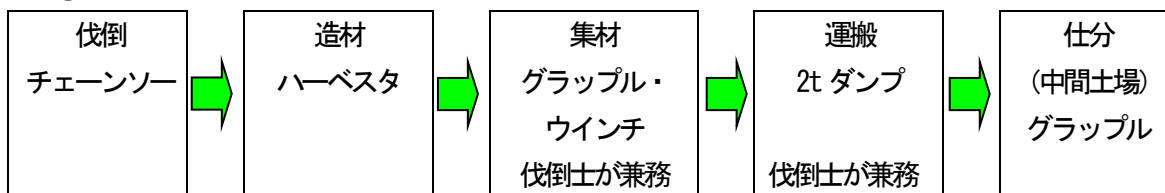
- ①施業方法：作業道を使用した定性間伐等
- ②使用機械：グラップル・ウインチ(0.25m³)2台、ハーベスタ(0.25m³)1台、グラップル(0.1m³)2台、2t ダンプ2台
- ③作業システム：

1) 旧作業システム（5人／セット）

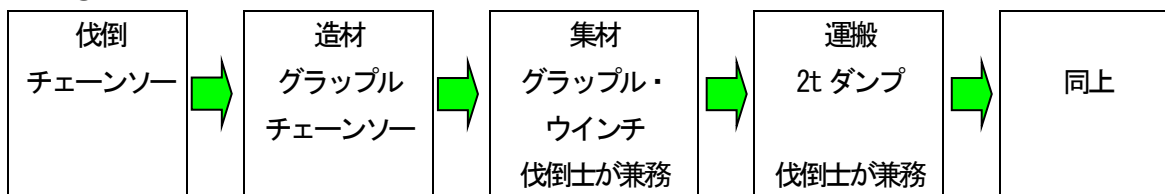


2) 現行作業システム（3人／セット×2セット）

現場①



現場②



④森林作業道の作設方法：

当組合の主たる中間土場への運搬には一般道路を走行する必要があり、積替えの手間をなくすため、フォワーダを使用せず、2t ダンプを使用することを前提とした作業道を作設している。小型バックホウを使用し無理・無駄な伐開をなくすとともに、丸太組や敷砂利による路肩、法尻の強化、路面排水対策をしっかりと行うことにより、壊れにくく長く使える作業道を開設し、2回目以降の間伐で森林所有者への利益還元を増加を目指している。

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

| 利用間伐 | 旧作業システム | | 新作業システム | |
|------|-------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| | 労働生産性 (m^3 /人・日) | 素材生産コスト ($\text{円}/\text{m}^3$) | 労働生産性 (m^3 /人・日) | 素材生産コスト ($\text{円}/\text{m}^3$) |
| | 2.5~3.0 | 9,000~11,000 | 3.0~3.2 | 9,000~10,000 |

- ・新作業システムの導入により、労働生産性を約12%向上させたことで、素材生産コストが約5%削減され、森林所有者への利益還元に繋がった。

5. 今後の取組等

新作業システムの導入により、複数現場の同時作業が可能になり、生産性の向上につながった。今後も、大小、多種多様な作業現場に対応できる人材の育成に取り組んでいきたい。特に若手職員には多様な現場、多様な作業を任せながら多能工化を進め、人、機械、森林に負担のかからない作業システムを構築することで、人材の定着や素材の持続的、安定的な供給に努めていきたい。



【ハーベスタによる伐倒・枝払い・玉切り】



【グラップル・ウインチによる集材】



【2t ダンプによる運搬】

【問い合わせ先】

所属：いせしま森林組合 企画整備課

役職・氏名：課長 佐々木 徹

連絡先：0596-62-0018